

子供の成長を導くグッドペアレンツ
～健康で明るい未来への道しるべ～

桐蔭横浜大学洪倉ゼミチーム A

○渡辺 侑馬 齋藤 友紀 射越 丈一郎 牧野 貴洋 小河原 優将

1. はじめに、緒言、研究の背景など

(1) 緒言

体力は人間の活動の源で、豊かな人間性、自ら学び、考えるといった生きる力の重要な要素である。体力が低下することで、肥満といった健康面、意欲の低下といった精神面など、生きる力を身に着けるうえで悪影響を及ぼす(文部科学省, 2002)。このことから、体力は健康な生活をおくるために必要な要素である。しかしながら、近年、子供の体力、運動能力が昭和 60 年頃と比べて低下している傾向にある。その原因として次の 3 つが挙げられた。

- ア. 子供の生活習慣の乱れ：食事のバランスが取れていない、世のライフスタイルが夜型に変化している、ダイエット思考があり栄養不足になる等。
- イ. 意識の低下：学力に比べて運動を軽視する傾向がある。体力の低下が及ぼす健康への認識が不十分である等。
- ウ. 三間の減少：具体的には、空間の減少（外遊び場の減少、施設の規則で自由に遊べない）、時間の減少(学校外学習の増加により友達と遊ぶ時間が減った)、仲間の減少(少子化、違う年代の子供同士の交流の減少)がある。

上記のア、イ、ウの 3 つの中で、生活習慣の乱れに着目した。食事のバランスが悪いため体の発達に影響を及ぼしている。また学力を重視する傾向があり、子供を塾に通わせることによって運動する時間が少なくなっている。中には複数の習い事に通っている所もあり、忙しい生活を送っている子供も多く、睡眠時間が短くなっている。これらのことから生活習慣が乱れていることが分かる。この背景に、親の子育ての仕方の問題があるのではないかと考えた。そのため、現代の親の子育ての意識・現状について調査を行い、親に働きかけ、これ以上の子供たちの体力の低下を防ぎ、社会全体の活性化につながるような政策を提案する。

2. 調査の方法、結果

(1) 調査目的

親の子育ての意識・現状について明らかにし、子供を伸ばす親か子供をつぶす親かについて調査・分析をすることにした。子供を伸ばす親とは、子育てが上手な親のことであり、子供をつぶす親とは、子育てが下手な親のことである。

(2) 調査方法

質問紙調査を行った。

ア. 調査内容：性別、仕事からの帰宅時間、家族構成を記入してもらい、子育てに対する意識についての質問、子育てに対する現状についての質問各 10 項目に回答を求めた。

イ. 調査対象者 3 歳から 15 歳の子供をもつ親（男女 36 名）。

ウ. 調査期間 平成 30 年 9 月 29 日～10 月 3 日。

エ. 調査手続き アンケート用紙を配布し、記入後回収する。

(3) 調査結果

表 1. 子育てに対する意識調査結果(N=36)

	項目	とてもそう思う	少しそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない
Q1	夫婦で我が家の教育方針を決めるのは大切だと思うか	22人(61%)	9人(25%)	4人(11%)	1人(3%)	0人(0%)
Q2	子供の成長において、夫婦仲は良好でなくてもいいと思うか	4人(11%)	4人(11%)	4人(11%)	11人(31%)	13人(36%)
Q3	子供の小さな長所を発見し褒めるのは大切だと思うか	28人(78%)	7人(19%)	1人(3%)	0人(0%)	0人(0%)
Q4	子供の選択肢を親が決めたほうがいいと思うか	2人(6%)	5人(14%)	10人(28%)	15人(42%)	4人(11%)
Q5	子供が新しいことに挑戦する機会を大切にしたいと思うか	28人(78%)	6人(17%)	2人(6%)	0人(0%)	0人(0%)
Q6	失敗に対してペナルティは必要であると思うか	0人(0%)	7人(19%)	13人(36%)	10人(28%)	6人(17%)
Q7	「人の役に立つ」素晴らしさを教える事は大切だと思うか	21人(58%)	13人(36%)	2人(6%)	0人(0%)	0人(0%)
Q8	子供の生活環境を親が見るべきでないか	3人(8%)	12人(33%)	11人(31%)	5人(14%)	5人(14%)
Q9	失敗してもめげない打たれ強い子供に育てる事は大切だと思うか	21人(58%)	11人(31%)	4人(11%)	0人(0%)	0人(0%)
Q10	世の中の動向や今現在の時代背景を見ることは必要ではないと思うか	2人(6%)	7人(19%)	9人(25%)	11人(31%)	7人(19%)

表 2. 子育てに対する現状調査結果(N=36)

	項目	はい	いいえ
Q1	子供にどんな教育をしていくか決めている	9人(25%)	27人(75%)
Q2	今現在の夫婦仲は良好である	26人(72%)	10人(28%)
Q3	子供の長所を見つけ、褒めている	31人(86%)	5人(14%)
Q4	子供が言う、将来についての希望に対して、肯定的に応援できている	30人(83%)	6人(17%)
Q5	子供にとって必要でないと感じるものは後回しにする	19人(53%)	17人(69%)
Q6	子供が失敗したときにペナルティを科している	11人(31%)	25人(69%)
Q7	子供に「人の役に立つ」素晴らしさを教えている	23人(64%)	13人(36%)
Q8	子供の学校や友人関係などの周辺環境に関わっている	30人(83%)	6人(17%)
Q9	失敗した場合を考え、子供に新しい挑戦はさせない	1人(3%)	35人(97%)
Q10	インターネットなどを利用して子育てにおける情報を調べている	20人(56%)	16人(44%)

質問項目の奇数が「子供を伸ばす親」についての質問である。そして、質問項目の偶数が「子供をつぶす親」についての質問である。

ア. 表 1 より、子育てに対する意識調査結果の考察

① 子供を伸ばす親

奇数番号の項目への回答で「全く思わない」、「あまり思わない」を選択した家庭は無かった。このことから、子供を伸ばす親としての意識はできているといえる。

②子供をつぶす親

偶数番号の項目のうち、質問項目 8 番（子供の生活環境を親が見るべきでないか）の回答で「とてもそう思う」を選択した家庭が 8%、「少しそう思う」を選択した家庭が 33% いた。このことから、子供をつぶす親としての意識が潜在的に存在しているといえる。

イ. 表 2 より、子育てに対する現状調査結果の考察

①子供を伸ばす親

奇数番号の項目のうち、質問項目 1 番（子供にどんな教育をしていくか決めている）の回答で「いいえ」を選択した家庭が 75% いる。そして、質問項目 5 番（子供にとって必要でないと感じるものは後回しにする）の回答で「はい」を選択した家庭が 53% いる。このことから、子供を伸ばす親としての子育てがあまりできていないといえる。

②子供をつぶす親

偶数番号の項目のうち、どの質問項目でも子供をつぶす親とされる回答が半数を超える項目は見られなかった。このことから、子供をつぶす親としての子育てはあまり行っていないことがわかる。

(4) 考察

子育ての意識としては、子供を伸ばす親としての意識はほとんどできている。だが、子育ての現状としてはあまりできていないのがわかった。子供の教育方針について決めることがどれだけ大切であり、行わなくてはならないことかを理解する必要がある。

また、なぜこのような結果になったか、いくつか仮説をたてた。「教育方針を決めるための時間がない」「どう教育方針を決めたらいいかわからない」「子供に自分で考えて決めてほしい」の 3 つが考えられた。

まず、「教育方針を決めるための時間がない」について、これは、働き方改革にて長時間労働の解消をしていく上で、仕事が理由で時間が作れないというのはなくなってくるといえる。それでも時間がないという場合、仕事以外で時間を割かなければならないものに時間を奪われている、もしくは時間を使っていることになる。

次に、「どう教育をしたらいいかわからない」について、教育の方向性は各家庭であるため正解はない。そのため、子供を伸ばす親の意識をもって決めていくことを重視すべきである。

最後に、「子供に自分で考えて決めてほしい」について、確かに子供が自ら考え決断することは大切ではある。しかしながら全ての決断を子供に任せるのではなく、子供が将来自立できるよう親がある程度の道筋を作って子供を導いていく必要がある。

3. まとめ、結果、考察など

(1) 調査結果のまとめ

調査の結果、子を伸ばす親に必要な意識と行動はある程度できていたが、夫婦で子供の教育方針を決めるのは大切だと思っているが、実際に行動に移せていない夫婦が75%と多かった。この結果から、子供の教育方針と一緒に決める親を増やしていくことが課題となった。したがって、この課題解決に向けた政策を提言する。

(2) 政策提言

ア. 「グッドペアレンツセミナー」の開催

子育ての支援を行っているNPO団体が、保護者を対象として、子供をのばす教育方法の指導を行う。親同士の意見交換の場を設けることで、子育てに関する知識や、親がどのように子供に影響しているのかななどをより深めてもらうことを目的とする。開催することで、親の子育てに対する意識の向上、子供の教育方針について考える機会の増加をねらうことができる。その結果、子供を伸ばす親の増加をはかることができる。

イ. 各地をめぐる様々な場所で家族参加型の運動会のようなイベントを開催する

スポーツイベントを行う団体や組織が様々な地域を巡り、地域ごとにスポーツイベントを開催し、その地域の方々と一緒にスポーツなどを行う。そして、家族間の関係性を深めるとともに適度な運動に触れてもらうことを目的とする。その結果、体力の低下や生活習慣の乱れを予防できる。

(3) まとめ

子供の体力・運動能力の低下という問題に親が深く関わっていることがわかった。そのため、これらの問題を改善していくためにも親が一つ一つの課題を理解し向き合っていかなければならない。また、社会の進化が急速に進んでいる現代を生き、予測不可能な未来を生きなくてはならない子供たちに対して、親は子供をつぶさずに伸ばしていく子育てを行わなくてはならない。

この政策提言をすることによって、子供をつぶさずに伸ばしていく子育てを行える親が増加していくことにつれて、これからの将来を担う子供たちが健康で明るい生活を送ることに期待できる。

〈参考文献〉

金子書房 児童心理～生活習慣のしつけ No.845 2006年 8月号

鈴木威 子どもは体育会系で育てよう！バディ式「生きる力」の伸ばし方 2010年 12月1日発行 株式会社阪急コミュニケーションズ

鳥居りんこ 子どもを「伸ばす親」「つぶす親」共通点 5

<https://president.jp/articles/-/14992>

文部科学省 HP 「子どもの体力の現状と将来への影響」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/attach/1344530.htm